

地域再生計画（地方創生汚水処理施設整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	千葉県	事業実施主体	君津富津広域下水道組合、君津市	地域再生計画名	水の恵み豊かなまち・君津再生計画
計画期間	平成27年度～令和元年度	評価責任者	君津富津広域下水道組合建設課長、君津市環境衛生課長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価
	指標1	指標2	基準年度	H25	年度	中間実績	R元年	最終実績	指標総数		達成数		
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	浄化槽整備地区における合併浄化槽普及率の増加	23%	H25	24%	H29	28.9%	24.5%	R元年	31.3%	○	2	浄化槽整備地区人口の減少と合併処理浄化槽の使用人口の増加により普及率が上昇したため、最終目標値は達成できた。
	指標2	公共下水道加入人口の増加	40,267人	H25	40,267人	H29	42,939人	43,967人	R元年	44,397人	○	2	本計画の事業効果等により、公共下水道加入人口が増加し目標は達成できた。
	指標3	自然体験学習実施校数（君津市内の公立小中学校全28校中）	18校	H25	28校	H29	18校	28校	R元年	17校	△	2	悪天候等により実施できなかったことや小中学校の統廃合による学校数の減（28校→27校）により、目標値は上回ることはできなかったがほぼ毎年度、基準値と同程度の参加となったことと、事業期間中の実施率を考慮した。（実施率 基準値64.3% 5年間の平均実施率69.06%）
	指標4	君津市の全域の定住人口増加（住民基本台帳）	88,316人	H25	89,274人	H29	85,181人	89,583人	R元年	83,499人	×	4	2
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1												
	指標2												
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
			計画	中間年度（H29）	最終実績								
特別措置を適用して行う事業	浄化槽（整備基数）	215基	88基	135基	毎年補助限度基数を43基としたが、平成27年度から令和元年度までの申請件数は、それぞれ、29基、30基、29基、21基、26基となっており、見込みを下回った状況である。								
	公共下水道（整備延長）	5,867m	1,126m	2,840m	君津台地区については事業完了した。中野地区、中富地区については事業進捗が計画どおりとならなかったため、見込みを下回った状況である。								
その他の事業													
計画外で独自に実施した事業	自然体験学習推進事業	小学生、及び中学生を対象とする自然体験学習を家庭、地域、学校、行政の4者が協力して実施する。	実施する学校数は天候に影響される場合があるが、実施した学校の参加者からは参加する前より君津市が好きになった等の意見が多数となっており、郷土を愛する心を育むことに貢献できていると考えられる。										
	小糸川遊漁まつりの開催	ニジマスの放流や掴み取り、ウナギの掴み取り、投げ網の体験を通して、河川の実地保全に対する理解、意識の高揚を図る。	第12～15回の小糸川遊漁まつりについて、参加者は第12回424名、第13回233名、第14回532名、第15回672名が参加した。第16回については、会場の都合により開催しなかった。本イベントの目的である、郷土の自然への愛着心や環境保全への意識向上を図ることができたと考えられる。										
	君津富津終末処理場整備事業	汚水の高度処理化をすめ、東京湾の水質保全に寄与する。	高度処理化が完了したのは全6池のうち5～6池の2池であり、今後1～4池に関しては改築更新に合せて高度処理化を行う予定である。										
	観光地としてのインフラ整備・施策	市内の観光地の遊歩道や案内板、トイレなどのインフラ整備と、（仮称）清和観光交流センターや亀山駅前広場の建設などの観光施策をさらに推進し、自然散策客や観光客などの交流人口の拡大を図る。	市内の観光地のインフラ整備を行った。（主な事業 H27三島島大衆トイレ改修工事、H28小種駅前観光トイレ、H29笹川湖展望台眺望案内板、H30鹿野山九十九谷展望公園案内板、H31久留里観光交流センター交流広場補装工事） なお、（仮称）清和観光交流センターについては、事業計画を見直し、亀山駅前広場については順次整備を行った。（H27～H31駐車場舗装工事、付帯市道舗装工事等）また、清水溪流広場（浪津の滝・亀岩の洞窟）は、SNSをきっかけに多くの観光客が訪れるようになり、交通誘導員の配置、駐車場の整備などを行った。このような観光施策により自然散策客や観光客などの交流人口が増加傾向で推移している。										
④評価方法	令和3年1月から2月に「水の恵み豊かなまち・君津再生計画内評価委員会」を開催し、最終目標値の実現状況に関する評価・検討を行った。												
⑤事後評価の公表方法	君津市及び君津富津広域下水道組合のホームページに掲載												
⑥計画全体の総合評価	君津市全域の定住人口は減少したが、地方創生汚水処理施設整備推進交付金の活用により、浄化槽整備地区における合併処理浄化槽普及率、及び公共下水道加入人口については、目標を達成し、事業の完了により更に増加することが期待される。一方、公共下水道整備地区の一部で整備の遅れが生じている。また、浄化槽についても補助金申請の件数が見込みを下回った。独自に実施した事業ではコロナ禍以前には、インフラ整備等による観光入込客数が増加や、自然体験学習、遊漁まつりを通じて、環境保全に対する理解、意識の向上、郷土愛を育むことができた。全体を通して環境保全に対する事業推進がおおむね良好に行われている。												
⑦今後の方針等	郷土愛を育むことや環境保全への意識向上を図るうえで、水質に寄与する公共下水道及び浄化槽の整備は必要不可欠である。君津市内の定住人口は減少傾向にあるが、公共下水道区域については計画事業の完了により下水道加入人口が増加し、浄化槽整備地区については合併処理浄化槽普及率が向上したことで、住環境を整えることができた。今後は、公共下水道では、君津台地区は計画期間内に完了したが、事業が計画どおりとならなかった中野・中富地区は社会資本整備総合交付金を活用し順次整備を行い、浄化槽については、広報紙やホームページ等を活用し、合併処理浄化槽の普及促進に努めるとともに、補助金対象地域に自治会回覧等を活用するなど、設置数増加に向けて更なる啓発に努めていく。また、今後の維持管理、事業効果のモニタリング、水質管理や環境保全に対する意識等の向上を図るためのPR方法、人口動態等を考慮した浄化槽及び下水道整備区域の見直しも検討していく。												